



主な内容：コンピュータと情報検索、アメリカの大学図書館紹介、利用者の声、書評、所蔵資料紹介、エッセイ「私と本」、継続購入図書のお知らせ、購読中止雑誌のお知らせ

## コンピュータと情報検索

“コンピュータ”“インターネット”と聞くと「便利」「何でも分かる」「情報が新しい」と想像する方が多いでしょう。今まで印刷物で1ページ1ページ開いて、情報にたどり着いていたことを考えると格段の早さで探せるようになりました。しかし、インターネットは便利で簡単に情報が得られると同時に、膨大な量の情報にも出会うことになります。果たしてみなさんはその中から自分が真に必要な情報を選ぶことができているのでしょうか？

今回はお二人の先生から、コンピュータで情報検索を行う上でのアドバイスをいただきました。



### 図書館雑感

助教授 近藤好枝

インターネットなどにより様々な情報が容易に、しかも瞬時に手に入るようになりました。日々情報が増え更新されるなかで、本当に必要な情報を吟味することはたやすいことではありません。

私が、このことを実感したのは6年ほど前です。母性看護学を専攻した私は、日常的に実施されるケアを見直そうという試みのなかで、Evidence-based Medicine (Evidence-based Nursing ならびに Evidence-based Practice) という言葉に出会いました。根拠に基づく医療（根拠に基づく看護ならびに実践）とは、信頼できるデータに基づいて理にかなった診療、看護、実践を行うことを意味します。それはまた、情報を吟味するということでもあります。参考資料としてオックスフォード刊の「Effective care in pregnancy and childbirth」が用いられ、「会陰切開の根拠は何か」がテーマとなりました。鍵となる言葉を探し、関連する文献を網羅的に調べる段階では、図書館員の方々が大きな力になって下さいました。論文をクリティークし、疑問の窓を1つ1つ開く作業を通して、研究によって明らかにされた知恵がある一方で、課題も残されていることに

気づきました。医療介入に疑いをもつことが少なかった私は、評価しつくされているわけではないという事実を知ったことで、根拠を明らかにすることの価値を強く意識するようになりました。

ところで、図書館の吉原司書さんに助産学研究における文献検索の実際について、講義をしていただきました。図書館員の方と直接関わることは、その機能を知り活用する上で有用と考えるからです。また、解らない時には、個々の状況に応じて支援を受けることができます。さて、文献検索の初心者である学生さん達は、コンピューターという魔法の箱を開けることによって、文献が網羅的に引き出せるという利便性に目を見張っていました。膨大な文献の中から求めるものが見つかった時の喜びはひとしおです。とはいえ、いくら設備が進化しても、それを使いこなすだけの知識と技術がなければ、コンピューターは単なるインテリアです。宝物がいっぱい詰まった魔法の箱をあける鍵は、どこにあるのでしょうか。それを探し出す近道はただ1つ、それは図書館の常連になることだと思います。

### 私のインターネット活用

助手 斉藤智子

『私のインターネット活用!』といっても、それほどインターネットを上手には利用できていませんが、息抜きに、仕事の資料探しに、また出張先のホテル予約<sup>\*1</sup>のためなど、ちょっとした時にインターネットを活用しています。仕事から時々チェックするのは、厚生省<sup>\*2</sup>や看護協会<sup>\*3</sup>のHPです。看護や

健康等に関する最近の話題や新しく出た通知、統計資料などが早くチェックできますし、関連するページへのリンクができるので便利です。

インターネットをやっていると、いろいろなページに寄り道してしまって、“あっ”という間に時間がたってしまう、なんてこともしばしば。でも、いろ

いろいろ見ることによって、「役立つ情報」が手に入ることもあります。よく、失敗したな、と思うのは、いい情報があった時にそのページのアドレスをチェックしておかないと、もう1度そのページを見たいと思っても、2度とたどりつけなかったり、探すのにすごく時間がかかってしまったり…。

情報科学教室に行くと、学生の皆さんがインターネットを利用しているのをよく見かけます。実習や授業の課題についての資料をHPで探したりして

いる人も大勢いるようですね。さすが、コンピューター世代の人たちだな、と感心しています。ただ、注意しなくてはいけないと思うのは、インターネットは、1つの情報源ではあるけれど、その情報がすべてではない、ということです。そこで得た情報をもとに、自分で本を調べて確認してみるとか、その他の情報源も活用しながら、自分の知識にしていけることが大切だと思います。

※文章中で紹介のあったホームページのアドレス

※1：旅の窓口：<http://www.mytrip.net/>

※2：厚生省：<http://www.mhw.go.jp/>

※3：日本看護協会：<http://www.group.nurse.or.jp/>



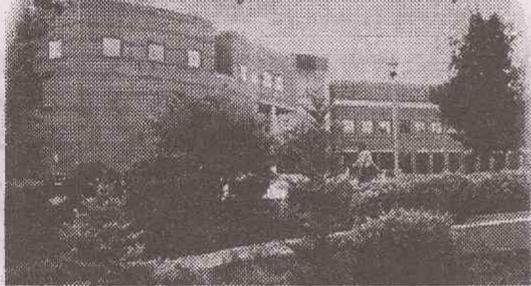
## 他大学の図書館紹介

### アメリカの大学図書館紹介

助手 森本美智子

アメリカのワシントン州の東部に位置するスポケーン市にある、ゴンザガ大学の図書館について

Welcome  
to The Ralph E. and Helen Higgins  
Foley Center Library



て、今回紹介します。この大学は、私立の総合大学で、学生約3000人の小さな大学です。図書館は3階建てで、その前にはスポケーン市の中心を流れる美しいスポケーンリバーがさらさらと音を立てて流れていて、各フロアから見える光景の美しさは、さながら、映画のワンシーンのようです。

さて、私がゴンザガ大学の図書館に感動したいくつかの点について紹介したいと思います。まず、ゴンザガ大学ではコンピューターシステムがかなり充実しており、文献検索については、自宅・

寮などからe-mailを通してアクセス、リクエスト検索できます。これは、キャンパス周囲に住む学生だけでなく、特に遠距離の学生（例えば、他州在住、カリフォルニアなど）に対してはとても有効的なシステムです。また文献検索において、各分野にindexが整理されており、そして文献のほとんどにabstractがついており、abstractを読めば大体的な内容が把握できるようになっています。それに加え、専門的な知識を持った司書が数人いて、文献が見つからないとき、キーワードの出し方や他の検索方法を助言してくれます。さらに、館内にコピーセンターがあり、係の人が、コピーしてくれ、多くのページをコピーする場合の時間と手間が省け便利でした。開館時間は、テスト週間は夜中0時まで、普段でも21時まで開館して、週末でも休まず開館しています。図書館に隣接して、24時間開放のスタディールームがあり、そこで学生はいつでも勉強できます。最後に、館内に大きなオーディオ・ビデオルームが設置され、学生はそこで各授業のビデオをみて復習出来ます。特に、欠席したときやインターナショナルの学生にとってその部屋の利用は、有効と言えます。以上のシステムは、本当に便利なシステムだと思いました。

※ ゴンザガ大学ホームページ：

<http://www.gonzaga.edu/>

## 利用者の声 ～ 看護短大図書館の感想 ～

### ゆったり図書館利用

学生時代、図書館などほとんど利用した事なかった私が、図書館に足を運びきっかけとなったのは、就職し毎日先輩看護婦から出される山積みの課題を調べる事からでした。休日、実家に帰って来ても患者さんの事が心配で、よく勉強に利用させてもらいました。今では、自己学習や看護研究等でも利用させていただいています。

ここの図書館の私のお気に入り、比較的新し

### 馬場昌子（新潟労災病院看護婦）

い本がそろっている事、やさしく親切な司書さんがいる事、そして、ゆったりとしたつくり大きな窓がある事です。そんな図書館で私は、持ちきれないほど本を集め、机いっぱい本をひろげ、ゆっくりと勉強させてもらいます。

最近、夜勤明けにふらっと立ち寄り、本を枕代わりにうとうとなんて事も…。それもとっても素敵な図書館だからできるのです。

## 連載企画 1. 書評

『人生の教科書「よのなか」』藤原和博、宮台真司著 筑摩書房 1999 (研究室所蔵)

『人生の教科書「ルール」』

//

1998

助教授 小林ミチ子

この2冊の本、『よのなか』と『ルール』は、前者が経済学・政治学・社会学といった分野、後者は、法律学・心理学・社会学に関する分野を中心に扱っています。しかし、その様相は、通常のテキストとは全く異なります。私たちの身の回りの出来事、社会現象—官僚の接待問題・税金の問題・自殺・売買春・ドラッグ・結婚と離婚・人工授精 etc—から‘社会の構造’や‘ルール’が生き生きと学んでいけるような仕組みになっています。言い換えると、私たちが生きていく上でのさまざまな動機づけと、学問的知識の修得がうまくクロスされたものといえます。また、本書は、中高生を対象にしたもので、やさしく読みやすい上に、話しの内容の水準が下がることなくおもしろく読めるのが特徴です。

著者の1人、新しいタイプのオピニオンリーダーとして注目されているビジネスマンであり、3児の父親である藤原和博氏は、「1個のハンバーガーから世界が見える」と題して(『よのなか』第1章)、会社の経営や組織、倒産、円高・円安、資源や環境と人間との複合問題、今どういう人材が求められるかに至るまで、あくまでも身近な問題として明解に論を進めます。もう1人の著者、社会

学者である宮台真司氏は、「なぜ人を殺してはいけないのか」(『ルール』第5章)では、1997年ある報道番組に出演した男子高校生の「なぜ殺人がいけないのか分からない。自分は法律の罰が怖いから殺さないだけだ」という発言を端緒に、「法律が殺人を禁止するのはなぜか」「殺人が法律で罰せられるからでないとして、私たちはなぜ人を殺さないのか」という問題について考察します。その過程で、法律や倫理(個人道徳)・道徳(共同体道徳)の問題、学校教育のあり方にも言及します。その論理の展開は、陳腐な昔と今の子育て比較論、心の教育論といった紋切り型であるはずはなく、現代という社会を歴史的に考察した上で、学問的知識と結びついた説得力のある議論を展開しています。

私は、この本に書かれたことは、結論というよりは、むしろ問題提起として受け取り、いろんな人と議論してみたいと思います。私たちが生きていくとき、その生活環境、社会環境、世相とは無関係ではられません。したがって、これらの本を足がかりにして世界と自分自身の関係をどう求め、生活を創造すべきか考えてみませんか?

### 所蔵資料紹介 ~ CD-ROM ~

CD-ROM 利用の際はカウンターでの申込が必要ですが、一部例外となるタイトルがあります。

- ①『系統別看護婦・士国家試験問題 解答と解説 2000年版』と
- ②『世界大百科事典 第2版』です。

USER1 (向かって左) のパソコンで利用できます。事前にカウンターに申し込む必要はありません。①は、国家試験問題を解き、採点できることはもちろんのこと、模擬試験を作成する機能もあります。また音声や動画(例・パーキンソン病患者の振戦)を視聴することもできます。

②は、大百科事典がまるごと CD-ROM になっています。7000 万強文字のある本文からの検索も可能です。本文中の見出し語はそれぞれリンクされていて、関連語句を次々調べていくことができます。

世界地図や日本地図、70 のビジュアル・テーマなどをカラーで“見る検索”もできます。

CD-ROM は本に比べてまだまだ値段が高いですが、その探しやすさには格段の違いがあります。ぜひ実感してください。

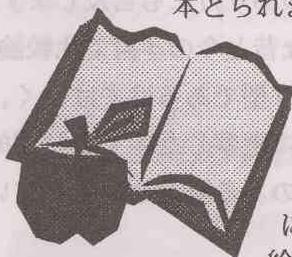
尚、作成した試験問題や検索結果をファイルに保存したい場合は、フロッピーディスクが必要です(本体(Cドライブ)に保存したものは削除いたします)ので事前にご用意ください。

このほかにも図書館には CD-ROM や電子ブックなどの“電子資料”を揃えています。タイトルを知りたい方はそれぞれ“CD-ROM”、“電子ブック”で検索してみてください。

## 私 と 本

## 絵本 星野雅子(看護学科3年)

私は本を読むことはあまりないのですが、絵本は好きです。小さい頃から家にはいろんな絵本があって、よく読んでもらいました。絵本の定番だと思いますが、『はらぺこあおむし』という絵本が大好きです。おいしそうな食べ物が描いてあったり、ページに穴があいていたり、物語もとてもおもしろいです。そしておいしそうな絵本といえば、『からすのパンやさん』です。いろいろな数多くのパンが登場し、そのパンがとてもおいしそうです。最近では、『りんごがひとつ』という絵本を読みました。これは本当におもしろくて、一本とられます。



絵本は楽しく・おもしろいのでとても好きです。絵本には、しつけや環境破壊、友情などをテーマにしたものもあるので、絵本を見ていると改めて考えさせられる事もたくさんあると思います。これからもいろいろな絵本を見る事ができたらいいと思っています。

## 私の本の読み方 漆間幸子(専攻科)

私は、県立看護短大の図書館で、高校時代から探していた本に出会うことができました。大江健三郎の『キルプの軍団』\*である。この本は、高校の国語の先生から薦められた本だった。この本を読みながら、先生は私に、私なりの本との付き合い方、読み方を伝えたかったのではないかと思った。

高校時代、遠藤周作の『深い河』を読んで以来、遠藤周作の作品が好きになり、その影響もあってフランス文学を好んで読むようになった。本の中に引用されている本を次に読んでみる。この作品にどのような影響を与えているか考えながら読み進めていくのが私の本の読み方だ。

人それぞれに自分に合った本の読み方があると思う。そして、自分の一冊を見つけると本を読むのが楽しくなる。その感動は、何物にも代えられない。私もその感動を忘れずに、たくさんの本に出会っていきたいと思う。

\* 大江健三郎著作本はこのほかに『あいまいな日本の私』や『恢復する家族』など38冊所載しています。

## 継続購入図書の一部中止のお知らせ

年鑑、白書、統計資料や国家試験問題集 etc... こうした資料は終期が無く（全何巻ものや何月までに刊行が終わると決まっていない）ほぼ毎年、出版されています。

図書館でもそうした資料を継続して、購入してきましたが、今年度は予算の都合上、昨年度までに比べ少ないタイトルしか継続することが出来ませんでした。

厚生協会から出ている各種統計資料（例・地域医療基礎統計、母体保護統計 etc...）もほとんど購入しないことになりました。

書架に並んでいる資料の次の年度版がなかなか並ばないな、と思っていた方はそうした理由ですので御了承くださいますようお願いいたします。どのタイトルが該当するのか知りたい方は日中の係員までお尋ねください。

## 平成12年度 購読中止雑誌のお知らせ（追加）

今年度は前号お知らせした分に追加してさらに、下記の雑誌を中止いたしましたのでお知らせします。

医学中央雑誌(冊子体) 2000年7月号より中止

尚、CD-ROM版は引き続き購入しておりますのでそちらをご利用ください。図書館のパソコンおよび学内LAN（教員用）で利用が可能です。

## 編集後記

普段、カウンターに出ることが少ないため利用者と接する機会も少ない私ですが、図書館だよりを編集して、利用者の図書館への感想や図書に対する考え方をすることで利用者をととても身近に感じることが出来ます。図書館と利用者との潤滑油となる紙面づくりを目指しますので御意見・御感想等どしどしお寄せください。tosyo@niigata-cn.ac.jp (Y)